

合法証明木材等に関する国際シンポジウム 2010  
違法伐採問題に対処する日本の取組第二部報告

報告者のデータ

氏名	大石美奈子
所属	(社) 日本消費者アドバイザーコンサルタント協会 NIPPON ASSOCIATION OF CONSUMER SPECIALISTS
肩書き	環境委員会副委員長 vice-chairperson、environment committee
略歴	消費生活アドバイザーは、消費者と企業をつなぐ橋渡し役です。環境に配慮した商品選択には「商品の一生」に関心を持つことが重要だと考えます。自治体での消費者向け講座の開催や、環境に関する審議会などを通じて、持続可能な未来社会に向けてグリーンコンシューマーが1人でも増えるよう活動を続けております。

報告概要

題名 わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている  
～商品の一生を知ろう～

報告要旨

(社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 (NACS) 環境委員会副委員長。高等学校家庭科教諭を経て、牛乳、米の相談室に勤務。消費者の声を届けるために、また、企業や団体が消費者に向けて発信する声がきちんと消費者にも届くよう、企業のステークホルダーミーティングや、省庁の検討会にも積極的に参加している。

NACS 環境委員会は、1999 年から持続可能な社会の形成に向けて研究・活動を続けており、消費者と企業のコミュニケーションツールとして有効な「環境ラベル」や「環境報告書」について調査研究を行い「グリーンコンシューマーが望む環境ラベル9原則」とチェックリストを作成した。また、消費者は自分に直接見える範囲にしか関心を持ってないが、真に環境に配慮した商品を選ぶためには、商品の資源調達から輸送、生産、販売、また使用後の廃棄・リサイクルまでの商品の一生に関心を持つことが重要である。グリーンコンシューマーが1人でも増えるよう「商品の一生を知ろう」などの消費者向けワークショップを開催し、持続可能な未来生活につながるべく活動している。

また昨年は、これまでの3年間の活動のまとめとして、「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている～商品の一生を知ろう～」という小冊子にまとめ、環境教育の場などで活用していただいている。

木材製品に関して、日本は7割が森林でありながら、残念ながら日本の消費者は、調達

の現場についてまで関心が高いとは言えない。リサイクルした古紙を使うことが環境によい、と考える消費者は多いが、では、元の木材がどこからどうやって調達されたものなのか、にまで関心を持つ消費者は、まだそれほど多くはない。しかし、それは消費者が関心を持てるような情報が不足しているからであって、環境に悪いものを選択したいと考える消費者はいないわけで、供給側からの現状の情報提供が足りないことが問題だと考える。

「紙おむつ」の一生を知ろう、ということで、各ステージにおける環境影響を調査・研究したが、紙おむつは使い捨てであるが故に、原材料として使用される木材の伐採現場や石油の採掘現場での環境影響が大きいと考える。いまだに違法伐採の木材が存在する現状、それにより、どのような自然環境や社会環境に影響が出ているのかを消費者にも正しく伝えるとともに、消費者が安心して選択できるような目安として、FSCやPEFCの認証材やSGECなどの国産材、間伐材の有効利用品などを、広くアピールしていくことが重要と考える。

最近、やっとこれらの認証マークなどが、文具や家庭用品、コピー用紙など、身近なものにも見られるようになった。(パワーポイント資料を作成の場合は、実際の製品についている認証マークの写真あり) またグリーン購入法に盛り込まれることで、今後、学校などの公共施設で多くの合法木材が使われることを期待したい。

昨年、グアテマラにコーヒー農園の視察に出かけたが、そこで聞いた話で一番印象に残ったのが、コンサベーションインターナショナルの認証をとるきっかけが、カナダの消費者の要求だったということ。また、レインフォレストの認証を取った農園主は、消費者に自分らの環境配慮した栽培の現状と想いを伝える方法として認証を取得した、ということであった。最終的に、消費者が何を求め、何を選ぶかで社会は変わっていく。日本の消費者も、もっと声をあげていかなければ、と感じている。